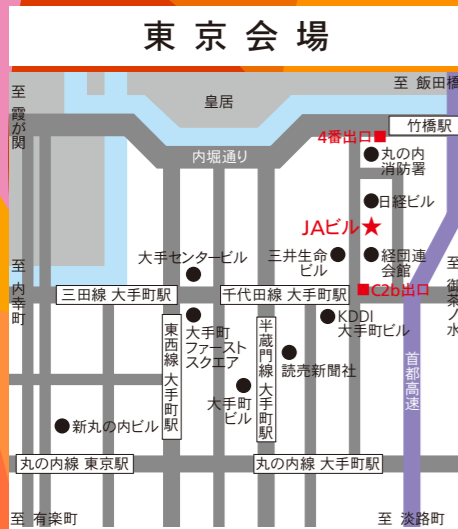


債券投資のニッチ戦略の魅力



東京会場
JAビル カンファレンスセンター
 4階 401A
 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
 TEL:03-3212-1912(代)

- 電車でのアクセス
 - ◎地下鉄東西線(東京メトロ) 竹橋駅下車4番出口
 - ◎地下鉄千代田線・半蔵門線・三田線・東西線・丸の内線(東京メトロ) 大手町駅下車 C2b出口
- お車でのアクセス
 首都高速道路: 神田橋インターチェンジをご利用ください



名古屋会場
ミッドランドホール
 名古屋市中村区名駅4-7-1
 ミッドランドスクエア オフィスタワー5F
 TEL:052-527-8500

- 電車でのアクセス
 - ◎JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分
 - ◎ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分
- お車でのアクセス
 名古屋高速都心環状線「錦橋」出口より約6分 駐車場の収容台数123台
- 中部国際空港(セントレア)から名鉄空港特急利用で28分



大阪会場
ヒルトン大阪 春日の間(10階)
 大阪市北区梅田1-8-8
 TEL:06-6347-7111

- 電車でのアクセス
 - ◎大阪環状線・東海道本線・宝塚線(JR) 大阪駅下車徒歩2分
 - ◎阪神電車 梅田駅下車 徒歩1分
 - ◎地下鉄四ツ橋線 西梅田駅下車 徒歩1分
- 駐車場のご利用
 - ◎24時間営業
 - ◎300台収容(高さ2.5mまで)

お申し込み方法

右記のいずれかの方法で、お申し込みいただけます。その際に、開催日またはタイトルをお伝えください(定員になり次第、締め切らせて頂きます)。また、ご案内のセミナーは基本的に機関投資家および資産運用に関連する方を対象とさせて頂いております。それ以外の方からの申し込みはお断りさせて頂く場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

※今後、セミナー案内をご希望されない方は、誠に手数ですが、セミナー事務局まで、お電話(03-6685-0683)か、E-mail (info@fromhc.com)にて、ご連絡をお願い致します。

こちらからお申し込み下さい

- ① <http://www.fromhc.com>
プロ投資家向け 資産運用情報サイト「from HC」
- ② FAX: 03-6685-0686
- ③ TEL: 03-6685-0683

6/13 (火) 東京
 14:00~17:00 (開場13:30)
 会場: JAビル カンファレンスセンター 4階 401A
 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
 TEL: 03-3212-1912(代)

6/16 (金) 名古屋
 14:00~17:00 (開場13:30)
 会場: ミッドランドホール
 名古屋市中村区名駅4-7-1 ミッドランドスクエア オフィスタワー5F
 TEL: 052-527-8500

6/20 (火) 大阪
 14:00~17:00 (開場13:30)
 会場: ヒルトン大阪 春日の間(10階)
 大阪市北区梅田1-8-8 TEL: 06-6347-7111

本セミナーは、資本市場における種々の投資対象や投資に関する概念等について解説・検討することを目的としております。本セミナー終了後には金融商品取引契約の勧誘を行う場合がございます。金融商品取引契約においては、投資対象の価格変動等により損失が生じる恐れがあります。また、報酬や諸経費は、契約毎に投資対象の種類等が異なるため、予め表示できません。なお、契約毎にリスク及び報酬や諸経費は異なりますので、契約締結前交付書面等をご覧下さい。

[人+産業金融=成長]
 成長を支える投資の原点へ



ご挨拶に代えて

長期投資は短期投資の無期限連続

『森本紀行はこうみる <http://www.fromhc.com/column/>』(2017.03.02)より

長期投資の重要性がよく言われますが、無期限と長期とは次元の異なる概念です。年金基金についてみると、その資産は、継続基準では、給付原資として払い出されるものではなくて、その運用の果実のみが給付原資となります。故に、資産運用の目的は、毎年の予定された収益を着実に稼得することに帰着するのですから、その限りにおいて短期的なのです。また、非継続基準、すなわち何らかの事情で制度の継続が不可能になったと仮定した基準では、資産は、その時点で加入員・受給者へ分配されるべきものですから、非常の事態に備える限り、常時、清算時の給付原価を上回っている必要があるという意味で、やはり、短期的課題を負うのです。

こうして年金基金の資産運用とは、短期の課題を無期限に達成し続けることであり、決して、長期の課題を実現するための資産運用ではないのです。制度が継続する限り、終わりが無いのですから、そもそも最初から有期の概念である長期が適用されるはずもありません。

いうまでもなく、資産運用において、長期の視点にたつことは、きわめて重要なことです。短期の資産運用の課題といえども、長期の視点においてのみ、適切に解かれ得るのです。ただし、長期の視点で短期の資産運用の課題を解くことは、長期の資産運用の課題を解くこととは、全く次元が異なるのです。

個別の案件についてみれば、長期投資とは投資資金の長期の固定化には違いありませんが、多数の案件を統合してなされる機関投資家の投資においては、個別案件の静態的な長期性よりも、常時投資資産全体として利息配当金収入や投資回収によって現金化し続けているという動態的な短期性の方が重要だということです。

講師：森本紀行

講演内容

債券投資においては、金利変動が支配的要素となります。そこで、リスク管理の視点からは、金利以外の多様な収益源泉を幅広く取り入れることが重要な課題となります。

米国ドル建ての債券市場は巨大で、そこには、多種多様な種類の債券が存在します。その広さ、深さ、厚みは、規模において、また質において、他を凌駕し、多種多様な異なる収益源泉を提供しています。ユーロ建て債券市場も、徐々に、種類と規模における深みと厚みを増してきましたし、また、エマージング諸国の現地通貨建ての債券市場も発達してきました。

それに対して、日本の債券市場は、圧倒的に国債が支配しており、厚みも深みもありません。しかも、マイナス金利になってしまいました。故に、日本の投資家にとって、グローバルな債券市場において、可能な限り多くの異なる収益源線を取り込むことで、債券運用の全体的リスク管理の高度化と収益性の効率改善を図ることは、緊急の課題です。

債券のなかで特に重要なのは、社債です。社債は、銀行融資に代表される信用供与という大きな領域の一部です。信用供与にかかわる投資機会の全体をクレジット投資と呼べば、クレジット投資は、金融の原点であり、資産運用の重要な基本要素です。

高度に発達したグローバル資本市場では、伝統的な信用供与のあり方は、大きく変貌しており、融資と投資の融合は進んできています。この信用供与の仕組みの構造的変化は、多くの豊かな投資機会を提供し、また、そこからは、日本国内にも潜在的にはあるはずの投資機会もみえてくるでしょう。

では、最後に、なぜ、ニッチ戦略なのか。それは、債券投資においては、金利等の少数の大きな要因に支配されないように、多数の小さな収益源泉、即ちニッチ戦略へと分散させることが重要だからです。

項目

- ニッチ戦略である理由
 - ◎金利変動に対する耐性
 - ◎収益機会としての小さな非効率
 - ◎小さな領域の深い専門性
- 債券の限界におけるニッチ戦略
 - ◎プライベート・デット(ローン)
 - ◎メザニン
 - ◎ディストレスト
- 金利に関するニッチ戦略
 - ◎ロールダウン
 - ◎コンベクシティ
 - ◎オプションナリティ
- 為替リスクの管理
 - ◎ヘッジコスト
 - ◎通貨分散
 - ◎エマージング
- クレジットに関するニッチ戦略
 - ◎高品位ハイイールド
 - ◎短満期ハイイールド
 - ◎米国以外のクレジット
- 複雑性に関するニッチ戦略
 - ◎資産担保証券
 - ◎物価連動債
 - ◎リスクの構造化(CAT, ART)



講師略歴

HCアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長

森本紀行

三井生命のファンドマネジャーを経て、1990年1月当時のワイアット株式会社に入社。日本初の事業として、年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を立ち上げる。2002年11月、HCアセットマネジメントを設立、全世界の投資機会を発掘し、専門家に運用委託するという、新しいタイプの資産運用事業を始める。東京大学文学部哲学科卒。